

パキスタンの農林業（6）

第6回：パキスタン農林業の今後の課題と我が国の技術協力

乾燥地域における農業開発はいかにあるべきかという視点に立って、これまで5回にわたってパキスタンにおける地域の自然とそれぞれの特性を利用した農業形態について紹介してきた。地域に特有な問題点と現在実施されている対策を取りまとめると、下の表ようになる。

	特有な問題点	現在実施されている対策
平原の灌漑農業	灌漑施設の老朽化や灌漑効率の低下による湛水及び土壌の塩類化	灌漑施設のリハビリや全国的な排水事業の展開
山麓の洪水農業	過放牧や洪水による土壌浸食と牧草地や耕作地の消失	集水農業の導入や植生改善による総合的な流域管理の実施
バルチスタンのカレーズ農業	カレーズ水量の減少や枯渇による伝統的な灌漑技術の衰退	井戸灌漑の導入や地下水涵養ダム建設
パンジャブの林業	森林資源に対する需要の増大と洪水の制御による河岸性森林の減少	既存林の保全や植林活動の展開ならびに代替燃料の導入

このように、地域毎に特有な問題が生じており、それぞれに応じた対策が実施されている。さらに、地域間にまたがった問題も生じており、典型的なものは山麓地域で生じた洪水による平原での灌漑システムの破壊である。言い換えれば、上流側での降雨の有効な利活用が、そのまま下流域での施設の破壊を食い止めることになる。こうした地域内および地域間に生じている諸問題に対処するためには、きめの細かい農法の導入やこれらの定着を支える技術者の育成が重要な課題になっている。

パキスタンは、アガハーン農村支援事業に代表される住民参加型手法の先進地域である。本事業は、社会開発を重視した農村開発事業としての先駆的成功事例とされている。ここでは、受益者が事業主体であり、受益者が同意して開始し、受益者が建設、運営、修理できる事業でなければ実施しない。そのため、受益者の当事者意識が高く、進んで費用負担や労働力提供を行うことになる。さらに、実際に村レベルで現地語を使って受益民の組織化を実施し、且つしっかりした英文の報告書も作成出来るような優秀なスタッフも育てている。ミタワンで実施されている流域保全のパイロットプロジェクト（第21号参照）では、アガハーンの農村支援事業で経験を積んだスタッフが、重要な役割を演じている。また、パキスタン林業関係者の中近東諸国における植林事業での活躍ぶりからも、優秀な技術者の層の厚さが感じられる。

乾燥・半乾燥地における自然資源の持続的な利活用ならびに地域住民のための生活・生産環境の改善は、世界の各地において今後ますます重要度を増していくものと考えられる。また、我が国の技術協力においては、参加型開発、環境、WID等の重要性が指摘されるようになっており、インフラ投資から人的資源の開発への転換が叫ばれている。パキスタンでは乾燥地に特有な問題点を抱え、これらを克服するために農民・農業関係者の質的向上も大きな課題となっている。そのため、日本人専門家が現場での経験を有する優秀な人材と一緒にあって、農村開発分野における技術協力活動を展開することは、世界の乾燥地域に応用できる技術の開発のためにも、参加型開発の手法を向上させていくためにも、興味深いことと考えられる。